



やまもと りょうすけ
山本亮介 議員
YAMAMOTO Ryosuke

Q. PFAS検出、町の所感は

A. 県や水道企業団と連携し対応

Q

PFAS（ペーファス）とは、4730種類もの有機フッ素化合物の総称である。今回はそのうちPFOS（ペーフォス）とPFOA（ペーフォア）を取り上げ、その総称をPFASと呼ぶ。PFASは耐熱性や耐薬性に優れており、フライパンの表面加工、撥水剤や泡消火剤として幅広く使用されている。また、環境中や生物の体内で分解されにくく、高い蓄積性がある。

豊山町と北名古屋市に水道を供給している北名古屋水道企業団が令和3年3月、豊山配水場を調べたところ、浄水で1リットルあたり150ナノグラム、原水で1リットルあたり175ナノグラム検出され、厚生労働省が定めた暫定目標値を上回った。

そのため、北名古屋水道企業団は令和3年3月17日、豊山配水場からの配水を停止している。今後は安心・安全を最優先と捉え、継続的な水質試験を実施し安全が確認されるまでは配水を再開しないこと

と、試験結果については都度、情報提供に努めていくとしている。

豊山配水場からPFASが検出された件について、町としてはどのような所感を持っているか。

A 生活福祉部長

環境省と厚生労働省が策定した「PFOS及びPFOAに関する対応の手引き」によると、水質検査の結果、暫定目標値を超えるPFOSやPFOAが検出された場合は、経年的な推移を把握することが望ましいとされている。

水道企業団は、この「手引き」に基づき、これまで5回の水質検査を実施している。令和3年9月に実施された2回目の検査では1リットルあたり54ナノグラムが検出されたが、3回目、4回目、5回目の検査では目標値を下回る結果となっている。

一部の住民の方からは不安の声が届いているが、現在の水質検査では目標値を下回っていること、有機フッ素化合

物に関する対応基準が曖昧なことから町としてはその対応に苦慮しているところである。

引き続き、愛知県や水道企業団と連携を取り対応してまいりたいと考えている。

Q

沖縄では、地元市民団体の「有機フッ素化合物汚染から市民の生命を守る連絡会」が昨夏、宜野湾市や嘉手納町など6市町村の住民387人を対象に血中濃度検査を実施した。いずれの市町村の住民の平均血中濃度も、環境省が2021年に実施した全国調査の平均値を大きく上回り、うち27人は、ドイツの専門機関が、健康上のリスクが生じ早急に曝露量を減らす必要性があると指摘する濃度を上回った。豊山町でも住民団体が6月から血液検査を実施するという報道もある。

この問題は第一義的には汚染源となっている事業者やそれを監督する県や国の責任だと思っている。そこで、国や県に対し、汚染源や汚染時期

の調査、血液検査や健康実態の調査を求めることを要望するが、どうか。

A 生活福祉部長

町としては、北名古屋水道企業団が定期的に行っている豊山配水場での水質検査の結果を注視しており、今後継続的に暫定目標値を上回るような結果が出た場合には、国や県に調査を要望してまいりたいと考えている。なお、国において、令和2年度に、水道法における有機フッ素化合物の位置づけが見直され、現在、必要な情報・知見が収集されているところである。今後も愛知県や水道企業団としっかり連携を図りながら、豊山配水場の水質検査結果や国の動向を注視していく。

